



侵略的外来生物は、日本在来の生物多様性や生態系に影響を与える脅威、すなわち生物要因リスクです。外来種の侵入や分布拡大を適切に管理することは、生物多様性の保全計画の重要課題です。一方、外来種の管理に配分できるリソース（予算や人員）は有限です。したがって、外来種のモニタリング事業や駆除事業を実施する場合、どのような外来種に焦点を当てるのかがポイントになります。外来種の管理計画をデザインする場合、在来種や絶滅危惧種の保全の観点、生態系サービスの確保の観点、公衆衛生の観点など様々です。さらには、日本全国を俯瞰して、どの地域の外来種に対策を施すのか、マクロな視点と戦略も不可欠です。限られた予算や人員を、効果的かつ最適配分して外来種管理の実効性を強化する必要があります。これは、在来の野生生物の個体群管理についても同様で、様々な生物種がリスク要因になります。例えば、シカやイノシシやサルなどは、個体群の増加や分布域の拡大に関係した農林業被害を発生させています。あるいは、ツキノワグマ個体群の分布域拡大に関係した人間との偶発的な遭遇は、人身事故を引き起こしています。これら在来の野生生物個体群も、状況に応じて適切に管理する必要があります。

本ウェブシステムでは、維管束植物と脊椎動物の外来種の分布および害獣とされる在来脊椎動物の生息地適性情報を整備し地図化しました。

■ 関連リンク ■

外来種管理の国家戦略と地域戦略をビッグデータで立案する

<https://note.com/thinknature/n/nec4536cd7e36>

シカ個体群のリスク管理：国家戦略と地域戦略を生物多様性保全の観点から立案する

<https://note.com/thinknature/n/n5b5df2ae3520>

ツキノワグマ遭遇リスクの可視化：ハザードマップを作成する

<https://note.com/thinknature/n/nf2bf5ed83349>

